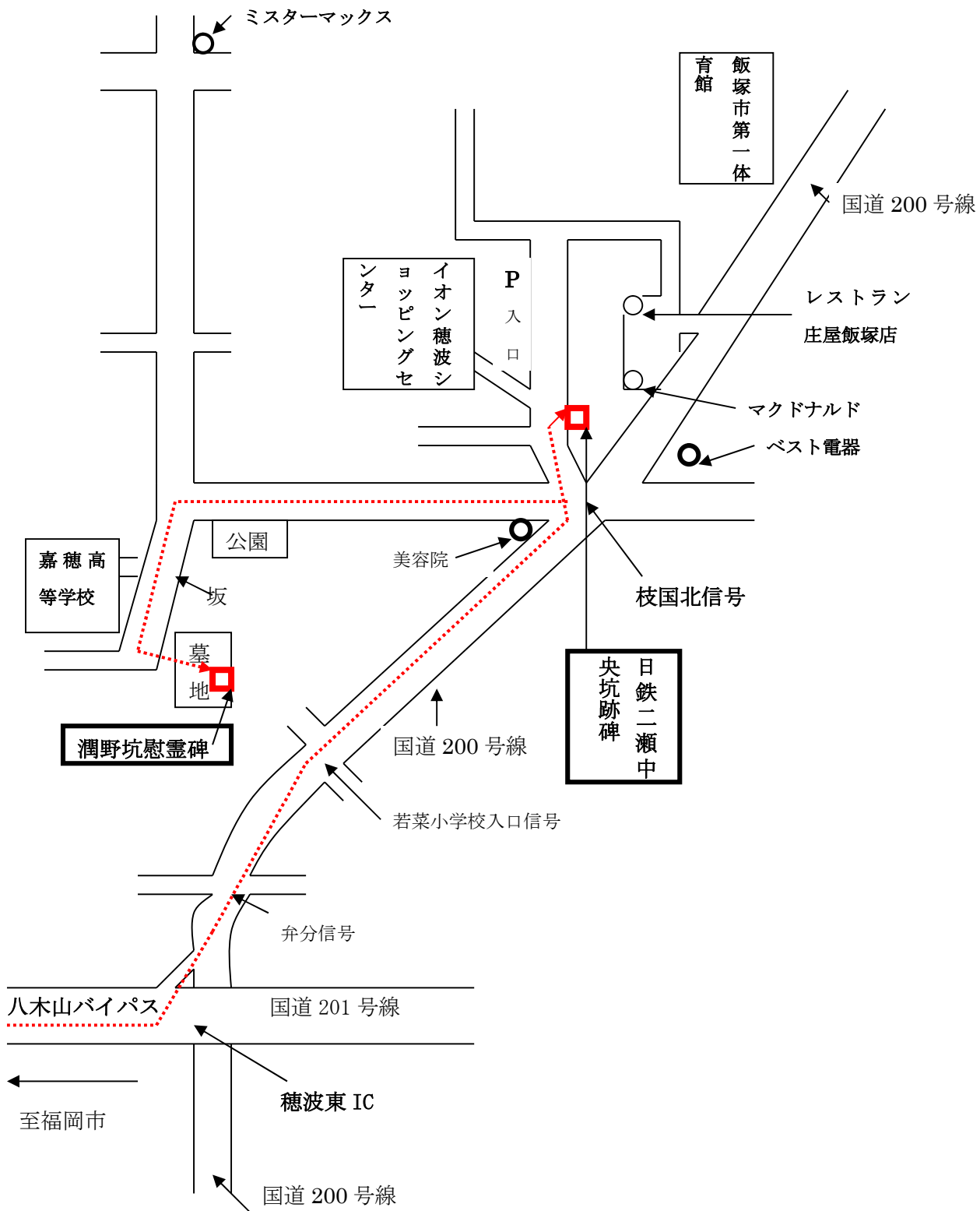


潤野坑跡（嘉穂高等学校前：飯塚市潤野 8-12 付近）

中央坑跡（イオン穂波ショッピングセンター前：飯塚市枝国長浦 666-48 付近）



潤野（うるの）炭鉱は1883(明治16)年に帆足義方（帆足は元々軍人で、西南戦争で九州を訪れたとき炭鉱業の将来性を見越して退役し、筑豊で炭鉱業を起こした人物）によって最初採炭される。1885(明治18)年8月、吉田千足が門司に石炭輸出会社を設立し、その帆足義方経営の筑豊炭の上海輸出を計画したが成功しなかった。当時の大阪市の加島屋の広岡信五郎（代理浅）が買収。当初は落盤事故等が相次ぎ赤字経営であったが、新たなる鉱脈の発見や運営改善によって、1897(明治30)年以降は産出量の増産がなされた。加島屋は三井物産との取引で中国の上海に向け輸出を行っている。1899(明治32)年、潤野炭鉱は官営八幡製鉄所への石炭供給源として国へ売却、官営製鉄所二瀬炭鉱となっている。八幡製鉄所は1934)) (昭和9)年に日本製鐵となり、1939(昭和14)年に鉱山部門が日鉄鉱業となり、日本製鐵の二瀬鉱業所に属したが、1961(昭和36)年閉山した。潤野炭鉱本鉱跡地は、現在、福岡県立嘉穂高等学校・附属中学校などになっている。高校正門の向えの製鉄所潤野坑慰霊碑があり、またボタ山を整地した跡などが若菜小学校にかけて名残をみることができる。

参考文献

飯塚観光協会（2015）『筑豊・飯塚炭鉱遺構めぐりマップ』飯塚観光協会.

飯塚市歴史資料館（2015）『平成27年度飯塚市歴史資料館企画展 広岡浅子と明治時代の筑豊炭鉱』飯塚市歴史資料館.

山口和雄(1992)「三井物産を中心とする明治前期の商品取引」『三井文庫論叢』, 第26号. 100～106頁.



日鉄二瀬中央坑跡



日鉄二瀬中央坑跡



日鉄二瀬中央坑跡



日鉄二瀬中央坑跡



製鉄所潤野坑慰靈碑



製鉄所潤野坑慰靈碑

製鉄所潤野坑慰靈碑



製鉄所潤野坑慰靈碑